

5年間の「創作童話を生かした保育」の考察

○箕浦志保 筒井祐子 田中扇子

(学が丘保育園)

『はじめに』

本研究は、日本保育学会第38回大会に第一報を発表してから、今回で五回目を迎える一連の発表であります。子どもたちの心に夢を与え感性豊かな子どもを育てようとの願いの基に、5年前から毎年子どもたちと共に一つの創作童話を作り、一年間の保育活動に展開させてきました。その五つの作品は次の通りです。

昭和59年度は「あかいほっぺのポポ」60年度は「なかよしミューとココロ」61年度は「おねしょぬまのぼうけん」62年度は「おそらにのぼったさんりんしゃ」63年度は「かたこゆりひめ」

『方法』

前回までの4年間は、主として自然や動物、お年寄りの触れ合い、乗りもの、宇宙への夢を中心に取り入れてきました。63年度は、本園の隣の区(神戸市西

区神出町)に伝わる民話を中心にして昔の「あそび」伝説、生活、農作業などを取り入れて、現代の生活様式と異なる姿に夢を追い「おはなし」を作りました。その上に、色々な体験活動を積み重ねてながらそれを基に一冊の「手づくり絵本」を製作し、リズム表現や絵画造形、劇あそびと総合的に展開させました。その中でもっとも留意した点は、次の三点であります。

(1) 体験活動を通してふくらむイメージを大切に
(イ) 話し合いから絵本作りへ (ロ) 経験してきたことをリズム表現に (2) 子どもの発想を大切に (イ) いろいろな素材を使い絵画造形に (ロ) 物語の心情をつかみ劇あそびへ (3) 廃れつつあるものを、あそびの中に生かす。「わらべうた」「竹馬あそび」「わらぞうりづくり」など。

『年間カリキュラム』(かたこゆりひめ)

月	テーマ	ね ら い	主な経験や活動	評 価 ・ 反 省
4月	伝承あそびをする (体験)	・保育者や友達と一緒に伝承遊びに興味を持つ ・いろいろな伝承遊びを知り、楽しむ	・歌ったり、踊ったり手あそびをし、いろいろな伝承あそびをする ・子ども同士で決めたルールを守り、遊びを楽しむ	・友達同士で歌をうたいながら丸く輪になり、遊ぶ姿が見られるようになった ・大きなクラスの子も達が遊んでいるのを見て小さいクラスの子も興味をもち、園庭で異年齢児と共に遊びが繰り広げられた
5月	民話のふるさとを訪ねる (体験)	・山道を歩く中で自然に充分触れる ・体験したことを話し合い、その感動を絵に表現する	・かたこゆりひめが住んでいたという山を実際に見に出かける(園外保育) ・画用紙一杯にポスターカラーやクレパスを使って描く	・お話の中に登場する山や池を実際に見たので、夢と現実が一体となり、子どもの喜びが大きかった ・おっこう山とめっこう山の高さ比べなど二つの山の特徴をよくつかみ、伸び伸びと描いていた
6月	昔の生活を知る 畑を耕やす (体験)	・畑仕事をする中で耕やし方や収穫の喜びを知る ・体験したことを話し合い、その感動を素早く絵に表現する	・クワやスコップで実際に畑を耕したり、玉ねぎを収穫したりする	・「畑仕事って、しんどくて、汗が出るわ」と言いながら、玉ねぎを力いっぱい引き抜き、自分の力で獲ったことを喜んでた ・これまで立ったまま仕事をする絵を描いていた子も、中腰で畑仕事をする様子を描くようになった

6 月	竹馬やわら ぞうりを作 ってあそぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と共に竹馬やわらぞうりを作り、親しみを持たせる ・竹馬に乗ったり触れたりしながら、工夫して遊びを広げる 	<ul style="list-style-type: none"> ・後ろ歩きやケンケン跳び両足跳びなどいろいろな乗り方を試みる ・見たり遊んだりしたことを絵に描く 	<ul style="list-style-type: none"> ・竹馬やわらぞうり作りを初めて見た子ども達は興味を示し、手伝ったりしていた。 ・竹馬に乗れない子も興味を示し、いろいろな乗り方を試みたり友達同士で競走ごっこをしたりして、あそんでいた ・二つの山と金棒池を作り終えた子ども達は、満足そうに手をたたいたり、歌をうたうなど完成の喜びを味わっていた
	砂でおこ う山めっこ 山づくり (体験)	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に見てきた山を砂で作り、印象を深める 	<ul style="list-style-type: none"> ・雨上りの園庭で、くわやスコップを使って山や池づくりをする 	
略				
9 ・ 10 月	おはなし であそぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・ストーリーを理解し登場するものの特徴をとらえ、伸び伸びと表現する 	<ul style="list-style-type: none"> ・経験してきたことを話し合い、動きを作ってリズム表現をする 	<ul style="list-style-type: none"> ・お百姓さんの動きは実際に体験を通して経験していたのでスムーズにできた
	歌や曲を つくる (リズム表 現)	<ul style="list-style-type: none"> ・ラージ絵本を取り入れ、豊かに表現する ・てづくり歌を入れて表現する 	<ul style="list-style-type: none"> ・リズム表現に必要なものを作る 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達のつぶやきや対話の中から場面の特徴を表わす言葉を拾い上げて、歌や曲に取り入れた ・子どもの動きとラージ絵本をうまく組み合わせたので見ている人にもリズム表現の内容がよくわかった
略				

「考 察」

以上のように本年度は民話を取り入れた結果、これまでになかった「あそび」や「活動」が見られた。自由あそびの時間に、わらべうたを口ずさむ子。園庭に作った砂山と大きな池。竹馬に乗れない子どもと一緒に練習をかさねる保母。初めて挑戦したわらぞうりづくり。これらのすべてが、団地に住む親や子ども達には、大変有意義な経験であったと思います。ここで、5年間の「手づくり絵本」と「創作童話」を生かした保育の展開をふりかえって数々の活動を集約してみました。

==在園児と卒園児の保護者の声==

*空想の中で夢をふくらませ、話や絵本だけでなく、自分で描いたり、作ったりして身近な自分達の童話として受け入れているので、こんな体験をさせてもらう子ども達は幸せです。*本園だけの童話が次々と出来上り、子どもも卒園していく度に思い出が出来てよいと思います。*毎年どんな物語、リズム、絵本が出来上がるか楽しみです。*子どもの心が豊かになり、童話を親子で楽しんでいます*空想、夢などが少なくなっている現在、目先の数字、成績などに追われている子どもが多い中で、夢のある保育は大賛成です。幼児期の経験が必ず将来本人の自信となると思います。

*幼児期に情緒面の発達を促す意味ですばらしい取組みだと思えます。*体験させながら興味をもたせた上で手づくり絵本を作っていく取組は、想像性や協調性が自然に身につきます。創作童話をリズム表現にして体で表現する喜びも味わい、今後も続けて欲しいです。*絵本の主人公に園児の名前が登場するなど子どもの身近かなものを入れ込み、手づくり絵本が出来上るのがうれしい。*小学生になり絵画の賞を幾度も頂き子どもにはそれが自信となり、他の弱い科目もぐんと伸びたのも保育園のお陰です。

最後に、日私幼賞受賞式での本学会長荘司雅子先生のおことばに「保育活動を助長するために、園の内外における幼児のユニークな体験学習をする中で、子どもの豊かな情操、果しなく広がる夢、すばらしい想像性が培われていく姿が生き生きしています。幼児期においては、創造性と想像性、そして感性の発達が非常に重要であるにもかかわらず、最近の幼児は物質的豊かさにおおわれ、自然の触れ合いを奪われ、心情の発達に欠けています。その時にあたり、保育者・園児・保護者の見事な協力・協同・連帯の中で、独創的な保育実践と一貫した保育哲学の基に“創作童話を生かした夢のある保育”が展開されています」とあります。今後も新たな気持ちで保育を続けていくつもりです。